

島に想いを寄せて

有村 治子

参議院議員(その後、女性活躍担当大臣に就任)

「海洋国家日本」

国土をなす島に関心を持とう

知っていますか？
日本が保有する島の数

先の大戦では、命を賭けて祖国を守ろうとした若者がいました。
今、彼らが命を捧げてでも守ろうとしてきた日本の領土を、私たちはしっかりと守られているでしょうか？

戦没者の御霊に思いを馳せると、いかにして日本の安全を守るか、あるいは独立国家としての平和と繁栄を守るかという本題に自ずから向き合うこととなります。その際、私はもつと海洋国家という視点を持つべきだと確信します。

日本は「八洲の国」といわれています。八つの洲で成り立っている国、あるいは八十の島々を持つ国であるという点で、「大八洲の国」と昔から呼ばれていました。
皆様は、今日日本にどれくらいの数の島があるのか、ご存じでしょうか？

実は6852もの島があります。これは無人島も含みます。県別でいうと、長崎県が一番多く、971の島を持っています。ちなみに宮崎県は179です。

なぜこのような話をしたのかと申しますと、日本が島々からなる海洋国家だからです。そして、島を持つこと自体が国の繁栄に極めて重大な意味を持っているからです。

私は初当選から、一貫して領土問題に取り組んできました。領土問題に取り組みかけとなったのは、一つの言葉に出会ったからです。ドイツの法哲学者イェーリングの言葉です。

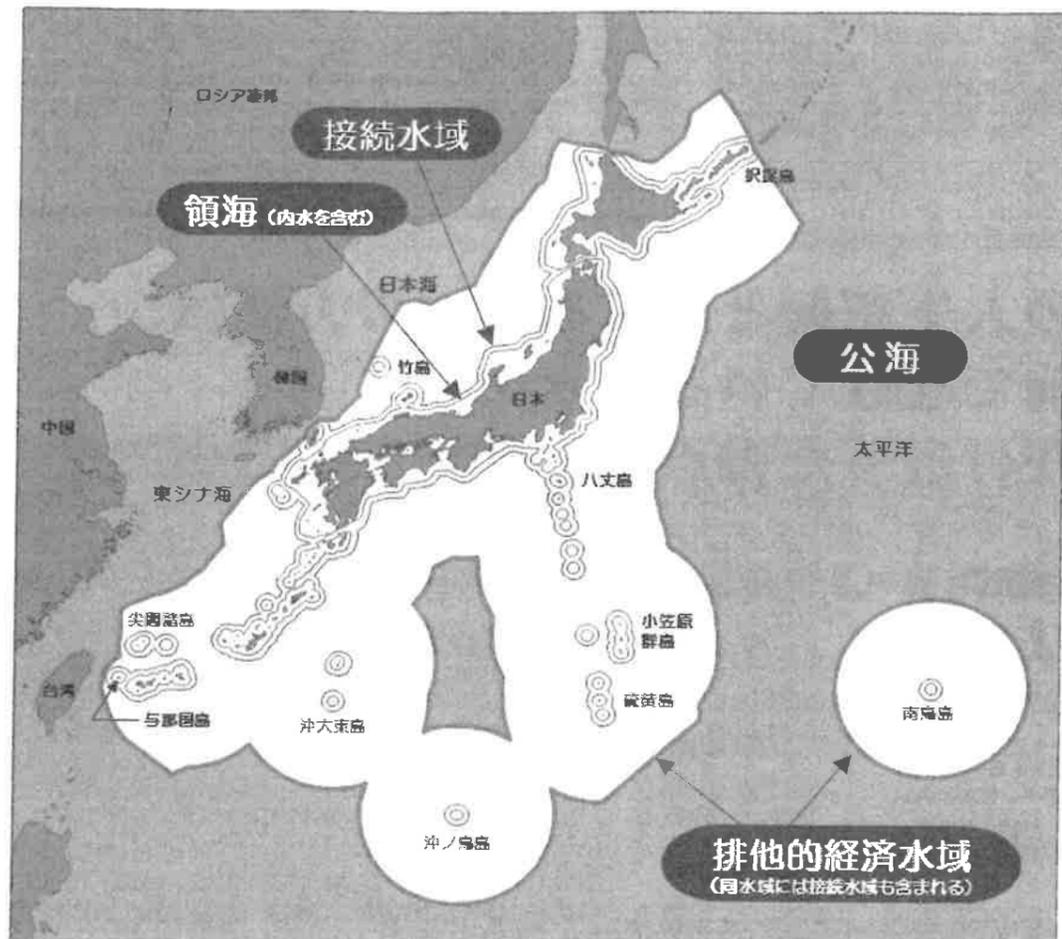
「領土の一部を失って黙っている国民は、領土のすべてを失う危険を負う」

つまり、その島の大小に関係なく、あるいは人が住んでいるかどうかにかかわらず、その島をどれだけ大事に維持・管理できているか、という話です。

もし、他の国から「日本人は領土問題に関心がなく、小さい島を少しくらいもらっても日本は文句を言わないんだ」という間違った認識を持たれてしまえば、次の「竹島問題」、次の「尖閣問題」が起こり得るといえます。

私には今、小学生の娘がいますが、小学校3年生では全国47都道府県のことを事細かに学びます。りんごの産地は青森県、みかんの産地は愛媛県、県境がどこにあるか、この川はどこからどこまで流れているかなど、本当に事細かに学ぶのです。

では、この日本がどれだけ島の成り立っているのかと問われたとき、60なのか、600なのか、6000なのか、全く見当がつかない現状というのは、やはり教育の偏りを感じざるを得ません。
平和を愛し、平和の重要性を誰よりも痛感し



(出典：海上保安庁HP「日本の領海等概念図」)

てきた日本人として、日本の国土がどのくらい広さで、どこからどこまでが日本の領土なのかということ、理解しておかなければならないと思うのです。

1島あるだけで 直径740キロの 排他的経済水域

ここで「島の定義を申し上げます。島とは、水に囲まれた四方の距離が100メートル以上の陸地をいいます。例えば、縦25メートル、横25メートルという広さの土地が海に浮かんでいるとしたら、島と定義されます。

なぜこの島が大事かといいますが、その島が1島あることにより、そこから半径12海里約22.2キロが国際法により、その国の領海になるからです。

そして、もつと大事なのは、皆様もニュースなどで聞かれたことがあると思いますが、たとえ小さな島であっても、その島があることにより、そこから半径200海里(370キロ)が当該国の排他的経済水域になることです。

すなわち、その島を中心にして半径370キロの水域は、その国が漁業をしたり、海洋調査をしたり、資源を採掘する権利を得られるということが国際法で明確に定められているのです。

だからこそ、島がどんなに小さくても、1島あることにより直径740キロの排他的経済水域を、争うことなく、戦争に巻き込まれることなく、国際法の中で保障された権利として日本に帰属させることができるのです。

日本の排他的経済水域は、どれくらい広いと思われませんか？

今、国連に加盟している国は193か国あります。日本の国土の広さは世界で62番目です。日本の人口は世界で10番目に多いです。

例えば、ヨーロッパのような地続きの国の中には島を1島も持っていない国もあります。それらの国は直径740キロの排他的経済水域を手に入れることはできません。

しかし、日本には6852もの島々があります。その点において、排他的経済水域は極めて広くなります。その広さは、世界で実に6番目になります。

領土教育をするのは 当然のことなんです

例えば、国土の最南端をなす沖ノ鳥島を日本は「島だ」、中国は「岩だ」と主張しています。実際に、潮の満ち引きで頭が隠れてしまうような厳しい状態です。そこで政府と東京都は、莫大な金額をかけて、その岩のように見える島が水面に隠れないようにコンクリートで補強工事を行いました。なぜなら、「岩」として排他的経済水域が認められないからです。しかし、これが島であることにより排他的経済水域が決まるのです。

ですから、単純にこの島は「無人島だから要らないよ」という話ではなく、一つ一つの島を守り続け、日本はしっかりと領土教育をしている独立国家なんだということを知り、国内外に知らしめ、日本の領土を狙おうとする国に、その意図を思い留まらせること(抑止力)が極めて大事なのです。

島根県に竹島という島があります。日本固有の領土ですが、韓国が領有権を主張しています。韓国では「独島」といいますが、韓国は国定教科書の中で見開きの2ページを使って、「独島がいかに韓国の領土であるか」ということを国民に教えています。

一方、日本の教科書には、竹島が韓国により不法占拠状態にあることは、これまで本文に一行も載っていませんでした。

日本の子どもたちが大きくなって、韓国の人と交流して、韓国の人から「あの島は韓国の領土だ」と言われた時、日本の子どもたちは「そうだな」とも「そうじゃない」とも言えるだけの情報量を持っていないのです。

当然、互いに独立国家ですから歴史認識の違いはあります。しかし、韓国の立場で情報を教え込まれている韓国の若者たちに対して、日本の若者たちは竹島の「た」の字も知らないで育ちます。

領土についての議論になった時、日本の若者は苦笑いするしかありません。これは独立国家の教育として健全なことではありません。

ですから私は小・中・高の関連社会科教科書すべてに目を通して、北方領土と竹島、尖閣諸島を日本固有の領土として明確に教科書で教えていただきたいと、初当選から一貫して主張し、国会質問で議論し、文部科学省や内閣に訴えてきました。

そしてようやくこの安倍政権で、教科書検定を終えた教科書においても、日本の領土がどこからどこまでなのかということを明確に伝える教育が実現します。

(昨年、宮崎県遺族会が主催した講演会より)

【ありむらひはる】昭和45年石川県生まれ。平成13年、自民党公認候補として参議院比例代表(全国区)から出馬し、初当選。平成17、18年、文部科学大臣政務官。その後、自民党女性局長、参議院環境委員長を歴任。平成26年国務大臣・内閣府特命担当大臣に任命され、初入閣。命の重み、家族・地域の絆、国家の尊厳を守ることを活動テーマとしている。